

- 問1 かぼちゃの入荷統計において、国内産が多く出回る6月から11月に外国産の輸入が減少し、国内産が不足する12月から5月に外国産の輸入が増加する仕組みが見られます。このような供給体制を維持するために、日本が主に行っている工夫として適切な説明はどれですか。 (2016年 奈良県公立入試 類似)
- 国内産の価格を維持するために、国内産の収穫時期にのみ高い関税をかけて輸入を禁止している。
 - 外国産の鮮度を保つため、収穫から数ヶ月間、現地の大型冷蔵庫で保管してから日本へ輸送している。
 - 国内産の品質が低下する冬の時期にのみ、品種改良された輸入専用のかぼちゃを海外で生産させている。
 - 日本と季節が反対になる南半球の国々など、収穫時期が異なる地域から輸入を行っている。
- 問2 日本の現代社会における流通の課題について述べた次の文の空欄にあてはまる用語を選びなさい。「宅配便の取扱個数が増加し続ける一方で、労働環境の改善を目指す法律によって、一人あたりの労働時間に制約が生じ、物流が滞る懸念がある。この課題は（ ）と呼ばれている。」 (2024年 広島県公立入試 類似)
- 限界集落の拡大
 - 高度経済成長の終焉
 - デジタル・デバイド
 - 物流の2024年問題
- 問3 日本の人口構成の推移において、2010年の統計では、65歳以上の「老年人口」が全人口の23.0%を占める一方で、0歳から14歳の「年少人口」は13.2%まで低下しています。このような人口構造の状態を表す言葉として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 愛媛県公立入試 類似)
- 多死社会
 - 少子高齢社会
 - 人口ボーナス社会
 - 第一次ベビーブーム社会
- 問4 日本の技術貿易における、1990年と2015年の変化について述べた文として、最も適切なものを次から選びなさい。 (2019年 茨城県公立入試 類似)
- 1990年にはすでに輸出額が輸入額を大幅に上回っていたが、2015年にはその差が縮まり、ほぼ同等になった。
 - 1990年当時は輸入額が輸出額を上回っていたが、2015年には輸出額が輸入額を大幅に上回るようになった。
 - 技術貿易の規模は1990年代をピークに縮小しており、2015年の輸出額と輸入額はともに1990年の値を下回っている。
 - 1990年から2015年にかけて、常に輸入額が輸出額を上回る「技術赤字」の状態が続いている。
- 問5 政令で指定された大都市において、市の中に複数の行政区を設置し、それぞれに区役所を置いている理由として最も適切なものを、次のうちから1つ選びなさい。 (2025年 宮城県公立入試 類似)
- 広い市域や多くの人口に対して、身近な行政サービスや福祉の手続きを効率よく行うため
 - 国の出先機関を各区に設置して、国家的な手続きを代行させるため
 - 都道府県の警察や消防などの全権限を各区に分散させて管理するため
 - 周辺にある他の市町村と合併した際に、旧市町村の独立した法律をそのまま残すため
- 問6 2020年の日本の貿易において、輸入総額に占める品目別割合の内訳を説明した文章として、正しいものはどれですか。なお、この年の統計では、電気機器や通信機といった「機械類」が全体の約27.1%を占めています。 (2022年 大分県公立入試 類似)
- 繊維品が全体の約3割を占め、高度経済成長期と同様の構成となっている
 - 原綿や羊毛などの天然繊維の原料が、輸入総額の過半数を占めている
 - 機械類が約4分の1を占め、次いで石油、医薬品などが主な品目となっている
 - 自動車や鉄鋼が輸入品目の上位を独占し、輸出額を大きく上回っている
- 問7 山形県で生産が盛んな果実であるさくらんぼ、ぶどう、りんご、西洋なしの統計を比較した際、栽培面積に対する収穫量の割合、つまり「単位面積あたりの収穫量」が最も高く、高い土地生産性を示している果実はどれですか。 (2026年 京都府公立入試 類似)
- 西洋なし
 - さくらんぼ
 - ぶどう
 - りんご
- 問8 2014年から2023年までの訪日外国人旅行者に関する統計データから読み取れる、国内での消費動向の特徴として正しいものはどれですか。 (2025年 愛知県公立入試 類似)
- 2014年から2023年まで旅行者数は一貫して増加しており、国内旅行消費額も旅行者数に比例して推移している。
 - 国内旅行消費額は2019年に最高値を記録したあと減少に転じており、2023年には調査期間中で最も低い水準となった。
 - 2023年の訪日外国人旅行者数は2019年の実績を大幅に上回り、旅行者数と国内旅行消費額の双方が過去最高を更新した。
 - 2023年の訪日外国人旅行者数は2019年の約3188万人を超えていないが、国内旅行消費額は約5.3兆円に達し過去最高を記録した。
- 問9 世界有数の火山国である日本において、再生可能エネルギーとして地熱発電の導入をさらに進めるべきだという議論があります。地熱発電の仕組みや背景に関する説明として、正しいものはどれですか。 (2019年 高知県公立入試 類似)
- 化石燃料を燃やして得られる熱を利用する仕組みであり、燃料価格の変動が発電コストに直接影響を与える。
 - 風の力を利用してプロペラを回す仕組みであり、騒音問題への対策から山岳地帯よりも沿岸部での開発が優先される。
 - 地下から取り出した蒸気や熱水でタービンを回す仕組みであり、日本は資源量で世界的に高い潜在能力を持っている。
 - ダムに貯めた水を放流する際のエネルギーを利用する仕組みであり、地質調査よりも降水量の安定が重要視される。
- 問10 苫小牧港の主要貨物に関する調査において、輸出貨物の第1位が紙・パルプであり、輸入貨物の第2位が木材チップであるという結果が得られました。この統計結果から考察できる、苫小牧市の工業の成り立ちとして最も適切な説明を選びなさい。 (2023年 長野県公立入試 類似)
- 輸入した紙・パルプを原料として、国内向けの木材チップを大量に生産するリサイクル産業が中心となっている。
 - 石炭の輸出拠点として発展したが、現在は石油の輸入とそれを利用した化学工業が輸出の大部分を占めている。
 - 広大な森林資源を背景とした製紙業が発達しており、不足する原料を海外から補い、製品を国内外へ供給する拠点となっている。
 - 海外から輸入した木材チップを、加工せずにそのまま近隣の工業地帯へ転送する物流中継拠点としての役割が強い。
- 問11 日本では、1979年から2009年にかけて、中心地域型の店舗が減少する一方で、郊外型の店舗が184店から1,640店へと急増しました。このような商業形態の変化が起きた社会的背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2017年 長崎県公立入試 類似)
- 高齢化社会の進展により、自宅から徒歩で移動できる範囲にある近隣商店街の需要が増加したため。
 - 公共交通機関の整備が急速に進み、人々が鉄道を利用して遠方の店舗へ通うようになったため。
 - 都市部の地価が著しく下落したことで、中心市街地における大規模な店舗開発が容易になったため。
 - 自家用車の普及（モータリゼーション）が進み、広い駐車場を備えた幹線道路沿いの利便性が高まったため。